

100年ぶりに再現！干潟を走る人力車



日本でも珍しい明治時代に活躍した天草名物「水中人力車」を100年ぶりに再現します。

当時使われていた人力車を実際に走向させ、4Kデジタルシネマで撮影。さらに将来的には観光客を海の玄関口から人力車で運ぶ「おもてなしサービス」を新たな観光資源として、関係部署等に提案していきます。

.....
天草・本渡港が現在のように整備されたのは1955(昭和30)年。天草博覧会を契機に完成した。

それ以前は、明治から昭和の始めにかけて、天草上島と下島の間の海峡は干潟で、上陸するためには、満潮時以外は、沖の汽船から舢舨(はしけ＝平底の船)に乗り、さらに膝ぐらいの深さの所から、「水中人力車」なるものになり、現在の赤灯台あたりから鶴屋天草店あたりにあった突堤まで約2キロの干潟を人力車が走った。この様子は明治時代後期に撮影された写真が残っており、それを見ると、沖の舢舨から10台ほどで隊列をなし、干潟を走っている様子が写っている。(写真＝天草アーカイブズ提供)

また、明治40年、北原白秋らが天草を紀行した「五足の靴」の文中にも長洲町で体験した「水中人力車」について次のような記述が残っている。

「車は海の中を走って行く。車の輪の心棒隠す位の深さで、まるで橇(そり)が氷の上を滑ってゆくやうに、車は水の面を走ってゆく。乗って居る者の心地は世に例なき喜ばしさである。(後略)」

この「水中人力車」は当時、日本では天草や長洲町、千葉県木更津など数カ所しかなく、大変珍しいものであった。天草では1928(昭和3)年、大矢崎港が完成するまで存在したが現在、残っているところは全国に一つもない。

島内で調査を続けて行くうちに、明治後期に使われたという人力車が天草郡苓北町の旧家に保管されていることが分かった。(写真)車輪は現在的人力車のようにゴム製のタイヤではなく、大八車のような木製(鉄輪)である。



このプロジェクトは現存する人力車を実際に使って、干潟を走向するシーンなどを4Kデジタルシネマで撮影し、公開する。

さらに新たな観光資源として提案して行く。

日時:2014年7月24日 午前11時から13時を予定

場所:本渡歴史民俗資料館前干潟

◎プロジェクトチーム:

天草デザインプロジェクト

◎ 出演者：

くらもとゆみさん、天草演劇愛好会のみなさん

◎協力：

天草高校、苓明高校生のみなさん(インターンシップ)

天草テレビ

問い合わせ:「天草デザインプロジェクト」

(天草テレビ内＝金子寛昭プロジェクトリーダーまで)

TEL 0969-22-2350 ケータイ 080-3901-1018

メール info@amakusa.tv